



教育目標

「自学、信愛、努力を基本とし、人間らしい生き方を求める生徒を育てる」

NANBU



学校だより第8号

水見市立南部中学校

令和2年12月8日

ならぬことはならぬものです

校長 扇谷 孝代

ここ数年間全国的に、子供同士でのSNS等に関するトラブルが増え続けています。このことは本校においても例外ではありません。中にはそのまま発展していくと、恐喝や盗撮等の罪に問われる事態に発展するのではないかと懸念される事例もあります。

こうした事例に遭遇すると、「子供たちは、物事を判断したり行動したりするとき、自分なりの基準をもっているのだろうか」と考えてしまいます。基準とは、例えば「嘘をつかない」「自分がされて嫌なことは人にしない」など、「人として生きていくために守るべき基準」です。

つい先日も生徒間でSNSに関するトラブルが発生しました。その対応に追われる中で、ふと頭に浮かんだ言葉がありました。

「ならぬことはならぬものです」です。

数年前、テレビの某番組で、主人公がよく口にした言葉です。当時、なんとまっすぐな言葉だろうと驚いた覚えがあります。

この言葉は江戸時代、会津藩士たちが子供の頃に教えられていた「^{じゆう}仕の掟」の最後の一文です。会津藩では10歳になると日新館という、現在の学校のようなところに入って学問や武芸を習うことになっていました。まだ日新館には入れない6歳から9歳くらいの小さな子供たちは、自分たちの町に子供たちだけで集まりをつくっていました。その集まりのことを仕といったそうです。「仕」では、一番年長が仕長となり、話をする決まりになっていました。その話の内容とは、

- 一、年長者の言うことに背いてはなりません
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 一、うそを言うことはなりません
- 一、卑怯なふるまいをしてはなりません
- 一、弱い者をいじめてはなりません
- 一、戸外でものを食べてはなりません



というようなもので、どの町の「仕の掟」も必ず最後は「ならぬことはならぬものです」という言葉で締めくくられていたそうです。そして、この「仕の掟」を守らなかった場合は、親と共に仲間にお詫びをしなければならなかったそうです。たとえお詫びをしても、改心した様子がみられない場合は、「ならぬことはならぬものです」と決して許してもらえなかったということです。

「ならぬことはならぬものです」という言葉には、人として生きるためには、理屈や言い訳が通らない絶対やってはいけないことがあるという意味が込められています。礼儀がないこと、嘘をつくこと、弱い者いじめをすること等は、人間として恥ずかしいことだと戒められていたのです。会津藩の子供たちは、「仕の掟」を大人から言われてつくったわけではなかったそうです。子供たちだけで掟をつくって実行していたのです。

基準はその人によってまちまちです。けれども、何より大切なことは、自分の基準が周囲の人を楽しく幸せな気持ちにし、自分も高めるような基準になっているかどうかということです。そのような基準を子供たち一人一人がしっかりともち、その基準を破りそうになったときは、「ならぬことはならぬものです」と自分自身を抑えられるようになることがとても大切です。

子供たちはこれから多くの人と関わりながら生きていきます。どのようなときであっても、周囲の状況に安易に流されることなく、自分で正しく考え判断し、周りの人たちと心を通わせながら、幸せな日々を過ごしてほしいと願っています。

支援型訪問研修会

本校は昨年度より2年間、「学力向上市町村教育プラン研究委託事業」における学力向上対策研究拠点校としての指定を受け、研究を進めています。本年度は二度の研修会を予定していましたが、コロナ禍のため、11月17日（火）のみとなりました。

当日は、2年2組で林教諭が理科の授業を、1年2組で澁谷教諭が音楽科の授業を公開し、その後の協議会において、教員の授業力向上を目指した活発な論議が交わされました。

市教育委員会や西部教育事務所から来校された方々からは、「子供たちは難しい学習課題にもよく食らいついている」「グループ活動が男女混合班でも円滑に行われている」「自習している生徒が真剣に取り組んでいる」「校舎内が明るくてきれい」等の感想の言葉がありました。



<音楽科の授業の様子>

高校説明会

11月19日（木）、3年生が氷見高校と高岡工芸高校、高岡市内にある3つの私立高校、富山高等専門学校の先生方から、高校生活や入試等について話を聞きました。保護者の方々も多数参加してくださいました。いよいよ本格化する進路選択に向けて、自分で情報を収集する絶好の機会とあって、どの生徒もメモをとりながら真剣に耳を傾けていました。



<高校の先生方からの説明を聞く生徒>

入学説明会

12月4日（金）、来年度本校に入学する予定の小学6年生とその保護者を招いて、入学説明会を開催しました。

開会の挨拶で、「中学校と小学校との一番大きな違いは、全員が卒業後の出口を自分で選択しなければならないことです。中学校生活は、大きなリュックサックを背負って、その中に出口選びに必要なツールを貯めていくものとイメージしてください。それは、1年生に入学したときから始まります。本気で取り組まないと、なかなか増えませんよ。」と話した際には、新入生の表情が少し引き締まったように思われました。進学時、緊張感をもつことは悪いことではありません。ぜひ、自分なりの決意を新たに、中学校に入学してもらいたいものです。

南中ネットルール改正

氷見市立南部中学校ネットルール改正委員会（令和2年度前期執行部と委員長）が中心となって取り組んでいた見直し作業が完了し、12月3日（木）、新しい「南中ネットルール」として全校生徒に発表されました。

一、時間を守ろう

- ・ 娯楽のための平日の利用は1日1時間半、休日は3時間以内にしよう。
- ・ お互いの時間を大切に、夜間の使用は控えよう。

夜10時～朝7時は電源OFFに！

一、南中生の自覚をもら、マナーを守ろう

- ・ 「〇〇ながら」の使用は控えよう。（食事中、会話中等）
- ・ 外出時に使用するとき、必要最小限にしよう。

一、犯罪等から身を守り、安全に過ごそう

- ・ 個人情報インターネット上にあげない。（顔、名前、住所、写真等）
- ・ 怪しいサイトにはアクセスしない。
- ・ ネット上で知り合った人に会わない。

一、正しく使おう

- ・ インターネット上の情報だけをうのみにせず、それ以外からも情報を入手し、正しい判断ができるようになろう。
- ・ うわさや思い込み等の不確かな情報に踊らされないようにしよう。

一、思いやりの心を大切にしよう

- ・ 自分がされていやなことは相手にもしない。
- ・ 画面の向こう側には必ず相手がいることを意識しよう。
- ・ メール等を送信する前に必ず立ち止まって見直してから送信しよう。

